



自己紹介

小山田 大和



1979年 神奈川県 大和市生まれ。生後間もなく神奈川県海老名市に移住。海老名高校卒業後、大学を首席で卒業。学生時代から小田原の街づくりに関わり結婚を機に小田原に移住。小学校時代からの夢である教師の道を夢見て、鈴廣かまぼこを皮切りに社会人経験を積む。塾講師、高校社会の非常勤講師を経て、教員の夢破れ日本郵政公社(現日本郵便)に就職。簡易保険(かんぽ生命保険)の営業マンとして営業成績優秀者として表彰された経験も。

郵便局時代に311と原発事故を経験。その影響もあり14年から農業・耕作放棄地問題に取り組む『おひるねみかんプロジェクト』を立ち上げる。エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議事務局、事務局長へ就任の傍ら、16年に合同会社小田原かなごてファームを設立。20年4月から同社長に就任。

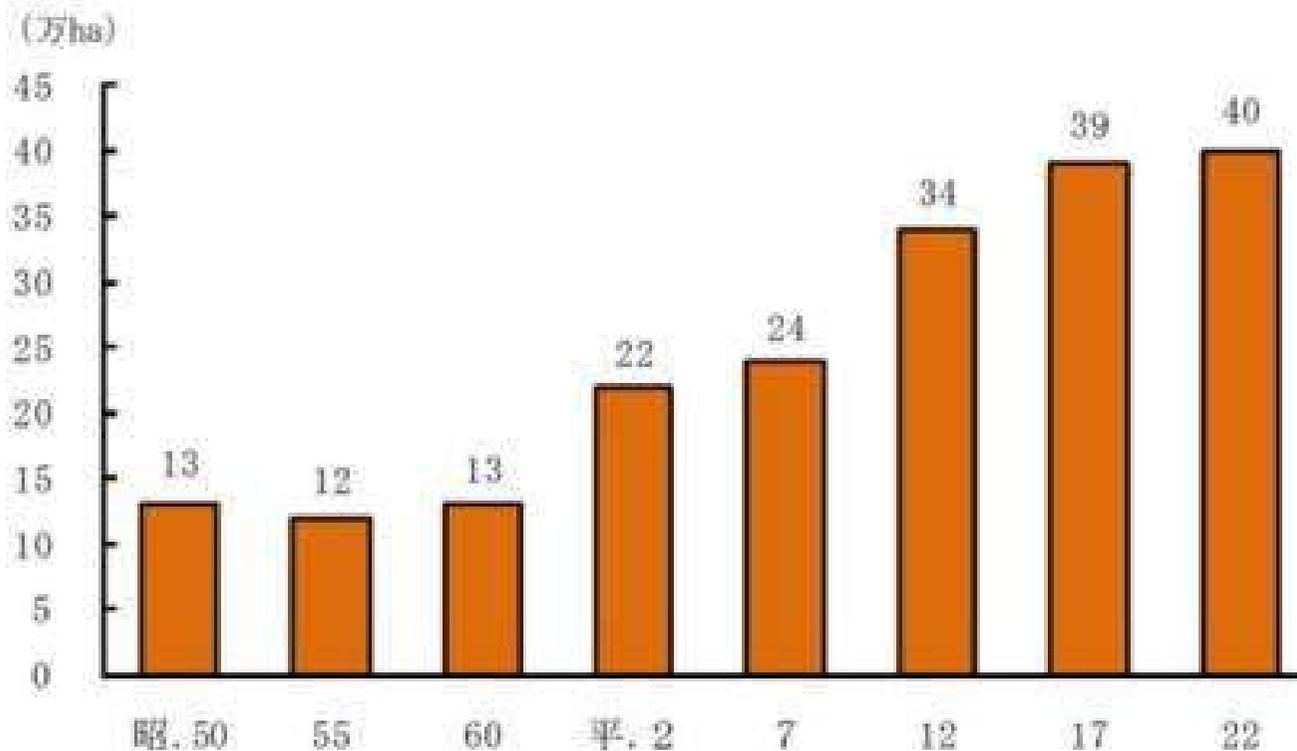
「原発ゼロ・自然エネルギー100%社会を創る」具体の実践を込めて16年に神奈川県下6例目のソーラーシェアリングを建設。農業と自然エネルギーを組合せる事業を本格的に開始。20年度には日本初のオフサイト型自家消費を完成させ、自家消費先としておひるねみかんプロジェクトの精神を伝える『農家カフェSIESTA』をオープン。食エネ自給こそ地方の魅力を引き出すとの信念をもって精力的に活動中。

早稲田大学招聘研究員。現在42歳。

日本・小田原市の耕作放棄地の現状

- 富山県の面積に匹敵(42.5万ha)
- 小田原市Fは168ha(H29)→**177.9ha (R2)**

耕作放棄地面積の推移 (全国)

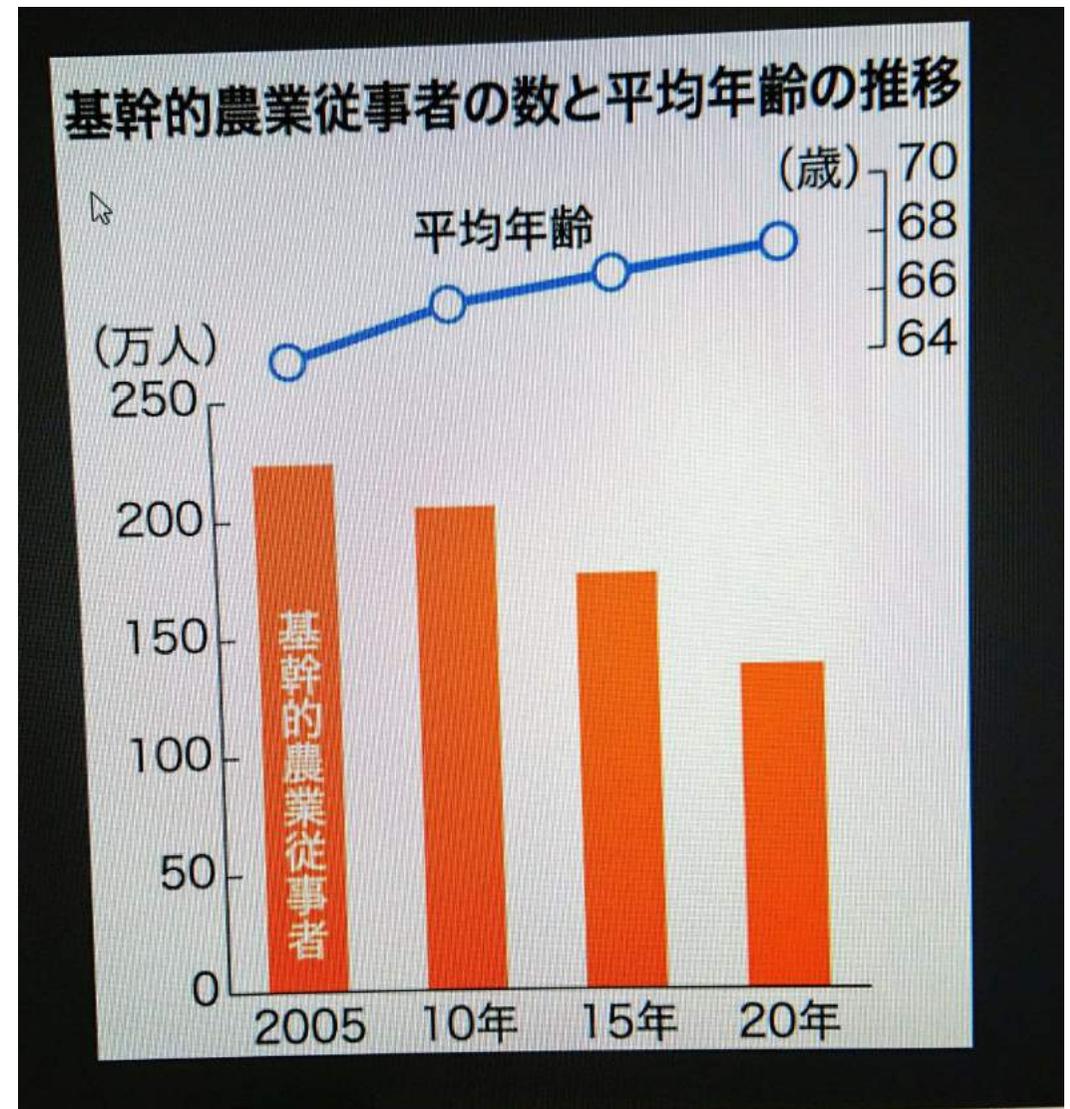


日本の農業の現状

農業人口136万人の衝撃

- 平均年齢68歳
- 農業人口136万人
- 前回の東京オリンピック時(1964)の1割の水準
- 食料自給率37%
- お米の値段いくら？
- みかんの値段いくら？

→持続可能か？



農の付加価値を高める動き

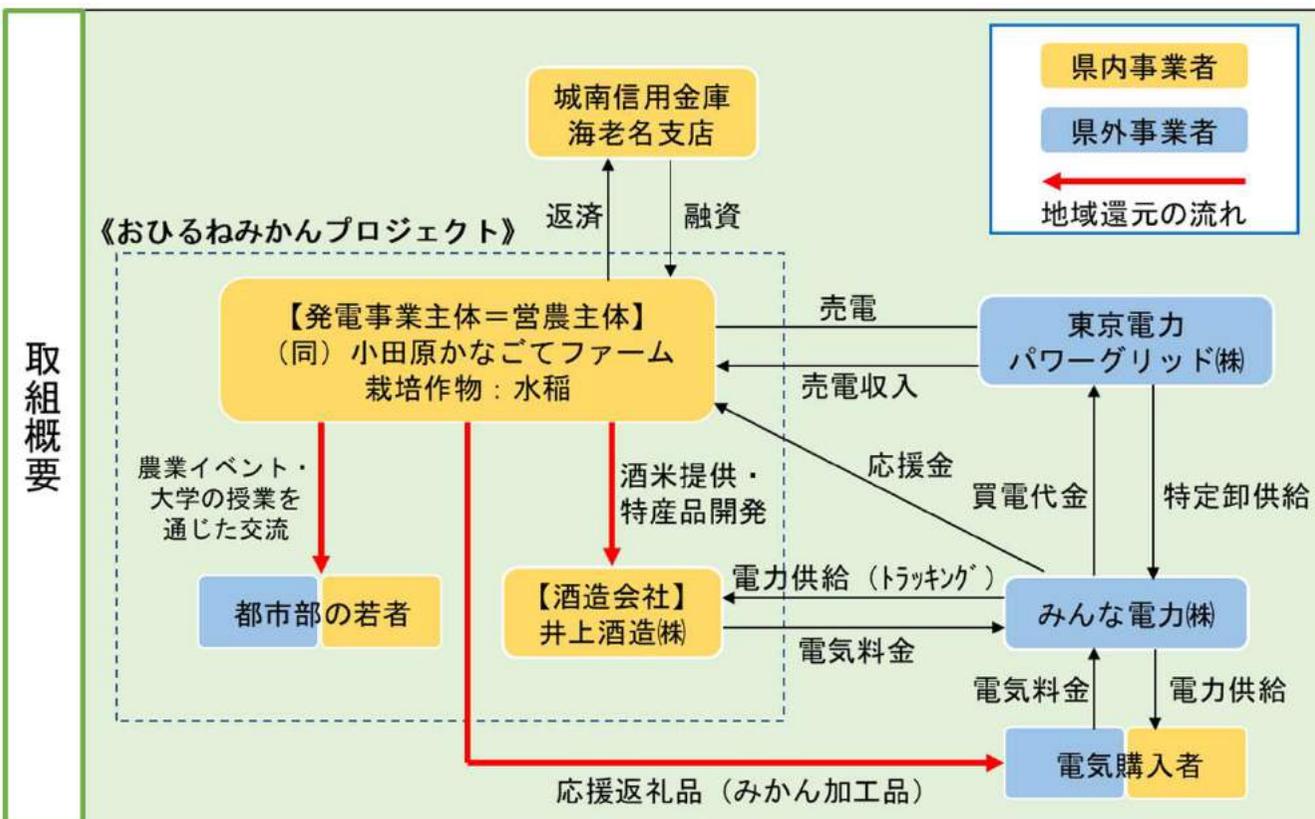
おひるねみかんジュースの開発(2014年)

2021年度からは JR東日本 スイート・トレイン四季島に採用



【営農型太陽光発電：合同会社小田原かなごてファーム】 耕作放棄地を解消し、地域の未来を担う人材を育てる事例

- ✓ 小田原かなごてファームは、市民有志ではじまった地域の特産品であるみかんの畑を再生する「おひるねみかんプロジェクト」を通じて、地域に眠る“資産”を活用して地域課題解決に取り組む様々な事業を行っている。その中で、耕作放棄地を活用してエネルギー（電気）と農業を同時に取り組む営農型太陽光発電を始める。
- ✓ 農業イベント等で若い人材の積極的な関与を受け入れたり、生産した酒米は地域内の酒造会社で加工するなど、次世代の地域と農業とエネルギーを担う人材育成や地域との連携を意識して取り組んでいる。



所在地	神奈川県小田原市
発電事業主体	合同会社 小田原かなごてファーム
発電所名	小田原桑原ソーラーシェアリング [®] 2号機
電源種別	営農型太陽光発電
発電容量	DC 58.24kWp / AC 38.5kW
運転開始時期	2018年3月 ※2019年9月台風により倒壊 2020年5月再建



田植え体験イベント(※)

(※)写真提供：合同会社小田原かなごてファーム



かながわ地球環境賞受賞



「勢い」順位につなぐ

あす号宛 かながわ県伝

【本紙記者】かながわ県伝あす号宛に、かながわ地球環境賞を受賞したかなごてファームの代表者らが、県庁で表彰状を受け取る姿が伝った。賞状を受け取る代表者は、県庁で表彰状を受け取る姿が伝った。賞状を受け取る代表者は、県庁で表彰状を受け取る姿が伝った。

かなごてファームが受賞

ソーラーシェアの実績評価



賞状を手にする川口保さん（右）と小山田さん。後ろは太陽光発電パネルを設置した農地。市内西宮町。

【本紙記者】かながわ地球環境賞を受賞したかなごてファームの代表者らが、県庁で表彰状を受け取る姿が伝った。賞状を受け取る代表者は、県庁で表彰状を受け取る姿が伝った。賞状を受け取る代表者は、県庁で表彰状を受け取る姿が伝った。

糖尿病の公開講座

2月17日 熱海病院

【本紙記者】糖尿病の公開講座が、熱海病院で開催された。講師は、糖尿病の専門家である。参加者は、糖尿病の症状や予防法について学んだ。

油彩×デジタル画展

NEW 新九郎で20点

【本紙記者】油彩とデジタルを組み合わせた画展が、NEW 新九郎で開催された。展示された作品は、伝統的な油彩画と最新のデジタル技術を融合させたものであった。

穴部店 大展示会

2/10-11-12 大決算祭

西村 motor's

穴部店 小田原市穴部537-1 ☎0465-66-2115

HEALTH CARE TOWER ODAWARA

6階(87.21㎡)クリニック・テナント募集

6F面積 87.21㎡
賃料 月350,000円
電気費・共益費 月30,000円
合計 月380,000円

株式会社D DIRECT ☎0465-44-6330

イベント情報

- 2/11 竹の衣箱着講
- 2/12 こより絵にみる東海道五十三次
- 2/13 小田原フラワーガーデン梅まつり

RareA

「COMFORT」で貸切パーティ

12月に「COMFORT」は特別アメリカンクラブ

パーティプラン 3,500~
ご予算に見じます

バンパ〜リハウス 園児募集

株式会社D DIRECT

農業×発電 復活へ

台風で倒壊、設備工夫

小田原水田で初



【本紙記者】小田原市水田で、農業と発電を両立させる「ソーラーシェアリング」の発電所が、台風で倒壊した。関係者は、設備の工夫を講じて、復活を目指す。この発電所は、水田に太陽光パネルを設置し、稲を育てながら発電を行う仕組みである。

【本紙記者】小田原市水田で、農業と発電を両立させる「ソーラーシェアリング」の発電所が、台風で倒壊した。関係者は、設備の工夫を講じて、復活を目指す。この発電所は、水田に太陽光パネルを設置し、稲を育てながら発電を行う仕組みである。

特A奪還へ丹精込め

「はるみ」田植え始まる

【本紙記者】特A米の奪還を目指す「はるみ」農家の田植え作業が、本格的に始まった。関係者は、品質向上のために丹精込めて取り組む。この田植えは、伝統的な技術と最新の農業技術を駆使して行われる。

ご孫儀 カドキホール

鎌倉 (24) 4455

6月 8日 9日



2号機完成式典にて



電気の紐づけという選択



売電(FIT)

みんな電力

プレミアム価格
での提供

供給

みんな電力は更に「顔の見える発電所」として電気のクラウドファンディングともいべき展開をしている。

ユーザー1人1人ごとに電気料金の中から100円が個々の発電所に寄付できる仕組みがある。



日本 YWCA
The Young Women's Christian
Association of Japan

全国初 Non-FITモデル オフサイト型自家消費型のソーラーシェアリング

環境省

小田原市

補助金 1/2

側面支援

松田町

事業主体 合同会社小田原かなごてファーム

管理する行政施設へ電力供給



売電

新電力会社 GPP (グリーンピープルズパワー)

電力供給

農家カフェ SIES
松田町行政施設



オフサイト型ソーラーシェアリング 工事着工→完成







食・エネ自給を目指す 農家カフェSIESTA開店



食とエネルギー 地産地消のカフェ

農地でつくった電力と農産物を使い、来客をもてなす農家カフェ「シエスタ」が9日、小田原市成田にオープンした。作物を栽培する農地で太陽光発電にも取り組む合同会社「小田原かなごてファーム」が運営。食とエネルギーを組み合わせ、地産地消の活動の拠点にするという。

同社は、野菜や米を生産しながら農地上の太陽光パネルで発電する「ソーラーシェアリング」を小田原市内2カ所で実施してきた。さらに、同市曾比の耕作放棄地に発電容量約780ワットの設備をつくった。2月上旬から再生可能エネルギーを扱う電力会社に売電し、一部を既存の送電線を経てカフェに供給。調理と冷蔵庫やエアコンなどに利用する。

カフェの主な食材は、同社がソーラーシェアリングを実施している農地で採れた野菜や県西地域の産品。9日の「本日のプレート」は鶏の照り焼きに里芋とレンコンやミカンの皮を添えた。シェフの春成太一郎さん(44)は「里芋の唐揚げもお勧めです。南足柄でのびのびと放牧された豚の肉も調理します」。市内と松田町産ミカンの濃厚なジュースも飲める。

代表社員の小山田大和さん(41)は「小田原での地産地消が足柄平野に広がりつつある。農地で作った農作物と電気を自家消費する仕組みを、食とエネルギーの自給モデルとして全国に広げたい」と話した。

カフェは国道255号の成田交差点から北へ約100㍍。午前11時～午後5時に営業。夜は予約制。不定休。問い合わせは小山田さん(090・7008・4455)へ。(村野英一)

小田原に開店「自給モデル、全国へ」

「本日のプレート」

「オーブントースターで焼いた鶏の照り焼き」

「小田原市成田9日目の「本日のプレート」として出された鶏の照り焼き」

は、長い間にはいりし...



農家カフェ SIESTA



農家の新鮮野菜があふまる
ゆったりとくちまげるカフェ



近隣はもちろん、
開成、栢山など
小田原市域はどこでも
デリバリーいたします。

テイクアウト デリバリー スタートしました！

ビーガン対応も
承ります！

Bean's Villageさんや地元のシェフにレシピご協力をいただき
安心・安全な野菜をたっぷり使ったカフェメニューや軽食を
テイクアウトやご自宅、職場までデリバリーいたします。



カフェで使う電気はソーラーシェアリングでまかない、自給自足を目指す。

食べ物(Food)、エネルギー、福祉(Care)を自給し、地域でお金を廻す。FEC+M自給圏の具体的な取り組みをささやかながら実働させていく。

左) 神奈川新聞 右) 東京新聞

神 奈 川 新 聞

全国初「自家消費」

既存線で送電

農地に建設 太陽光発電所

あす開店 小田原のカフェ



建設中のソーラーシェアリングを前に再生エネの自家消費モデルを語る小山田さん＝小田原市曾比

農地の上に建設した太陽光発電所でつくった電気を「自家消費」して営業するカフェが9日、小田原市内にオープンする。太陽光発電所と電力需要施設を直接つないで電気を供給する方式はこれまでもあったが、両者を既存の送電線とつなぐ「オープンサイト」方式では全国初という。運営する合同会社「小田原かふぇファーム」は「食もエネルギーも自給自足のモデルをつくりたい」と意気込む。

同社はこれまで同市内の耕作放棄地を借り受けて農作物を育てる一方、その真上に太陽光発電所を設置する「ソーラーシェアリング」を力所設置。農業収入に売電収入を加える新たな農業の在り方の構築に取り組んでいる。

今回のカフェは3年ほど前から構想があったが、当時は技術的に難しいと言われていた。だが再生可能エネルギー（再エネ）で発電された電気を一定期間、固定価格で買い取る一定価格買取制度（FIT）の満了や売電単価が次第に下がっていき現状を鑑み、自家消費による脱FIT型モデルを模索した。

全国初のオープンサイト方式による再生エネ電気の自家消費の仕組みは、太陽光発電所をつくった電気を新電力会社に売って、既存の送電線を通った電気が新電力会社に再びカフェに供給され、それを賣つて、売電単価などがつかなくなると、再生エネ発電による電気の100%供給を目指すグリーンヒールズパワー（GPP）と合意した。

方式も新しいが、資金調達も先駆的だ。城南信用金庫に県信用保証協会を絡めて融資を取り付けた。同社代表社員的小山田大和さんは再生エネは良い事業でも、資金が集まりにくいのが課題。信用保証協会は全国にある。今回が前例となった。どこでも資金調達かしやすい」と期待する。

小田原市成田にオープンする「農家カフェ・シエスタ」では、旬の地場野菜を使った食事などを提供する予定。自社の畑の作物だけでなく、支援の意味も含めて周辺の農家からも仕入れる。年間1千万円ほどの売り上げを見込み、地域経済の循環にも期待する。

ソーラーシェアリングの設置場所にもこだわった。郷土の偉人・二宮尊徳が若い頃に田畑を耕した同市栢山地区周辺を探した。ようやく見つけた酒匂川沿いの松並木が残る地域は掘つてみると石が多く、費用は予定より600万円ほどかさんだ。

だが小山田さんにとめらなはなかった。「尊徳もこういう風景を見ながら開墾したはず。そこから今に残る報徳思想の原点をつくった。そういう土地で新しい農業の原点をつくりたい」。農家カフェの問い合わせは、小山田さん 2090（7008）44515。

2021年(令和3年)4月22日(木曜日) 横神 地域の情報

電力と農作物 自家製で

農地で発電 小田原の会社 市内にカフェ

5。離れた農地で発電した再生可能エネルギーを電力に使う「農家カフェ・シエスタ」が、小田原市成田にオープンした。耕作しながら太陽光発電する「ソーラーシェアリング（従来型太陽光発電）」に取り組む

地元の合同会社「小田原かふぇファーム」が運営する。自家発電・消費は通常、発電所と近くの店などを電線と直接結ぶが、市中の送電線からカフェへ電気を送る珍しい試みという。（西岡聖雄）

同社は東京電力福島第一原発事故で危機感を持った市民や地元の元農家が、一四年前に設立した。市内万所の耕作放棄地を再生し、イモや米を収穫しながら、ペンタ、大豆、落花生などを育て、年計一百万円近い売電収入も得ている。

三万戸目となる今回は、カフェ、ソーラーシェアリングに加え、太陽光発電所とカフェに電力の出入力メーターを設置する。電力がカフェに届いていることを新電力側が証明する。かなごてによると、農地の太陽光発電所とカフェに電力の出入力メーターを設置する。電力がカフェに届いていることを新電力側が証明する。

小山田社長「全国に広がる前例に」

かなごてが収穫した作物、地元産の魚の料理をカフェで提供し、食の地産地消を目指す。店員の長谷川美保子さんは、一尾の牛の骨を肉井が収穫した。遊走ミカドで収穫した。カンを搾る「おひるねみかど」をエースをはじめ、地元産の肉を販売する。

固定価格買取制度の廃止を懸念する。小山田社長は「再生エネ発電の買取価格は全国的に伸び悩んでいる。小山田大和社長は「再生エネ発電の買取価格は全国的に伸び悩んでいる。小山田大和社長は「再生エネ発電の買取価格は全国的に伸び悩んでいる。」

小山田大和社長は「再生エネ発電の買取価格は全国的に伸び悩んでいる。小山田大和社長は「再生エネ発電の買取価格は全国的に伸び悩んでいる。」

ソーラーシェアリング下で出来た自然栽培100%米使用日本酒“推譲”完成



各メディアに続々

- 小泉元総理、中川秀直元自民党幹事長にも飲んでもらいました。

